

## さっぽろエコこども **14** の誓い

第2次札幌市環境基本計画では、大人だけでなく子どももできることから環境対策に取り組むため、「さっぽろエコこども14の誓い」を計画に位置付けています。

※この誓いは平成28年度札幌市子ども議会における提案を基に作成されました。

### 第1章 みどりと生き物

- ・家や学校で花をはじめとした植物を植え、大切に育てます。
- ・身の回りにいる生き物に興味を持ちます。

### 第2章 物とごみ

- ・物は大切に、直せるものは直して使います。
- ・分別ガイドを見ながら、ごみを分別します。
- ・ご飯は残さず食べます。

### 第3章 エネルギー

- ・使わない部屋の電気は消します。
- ・歯磨きの時の水は止めます。
- ・テレビの時間、ゲームの時間を短くします。

### 第4章 消費

- ・環境のマークについて学びます。

### 第5章 乗り物

- ・近くの場所には歩いてまたは自転車でいきます。
- ・遠くの場所には地下鉄・バス・市電・JRで行きます。

### 第6章 自然を学ぶ

- ・環境に関するイベントに参加します。
- ・家族でごみのこと、自然のこと、環境のためにできることを話します。
- ・エコライフレポートに積極的に取り組みます。

### 第7章 地球から見た平和

- ・新聞やニュースから世界で起きている問題を学びます。

# 次世代につなぐ環境首都・ SAPPORO

～今、わたしたちにできること～



発行：札幌市環境局環境都市推進部環境計画課

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目  
TEL 011-211-2877 FAX 011-218-5108  
Mail: kan.suishin@city.sapporo.jp



さっぽろ市  
01-102-18-474  
30-1-45

札幌市



## どんな環境の問題があるの？

札幌市はこれまで、石炭を暖房に使うことで空気が汚れたり、工場や家庭の排水をそのまま川に流すことで水が汚れたりといった問題を克服しながら今の環境を手に入れてきました。

しかし、世界全体を見ると、地球温暖化による異常気象などの影響や世界的な人口の増加による資源の枯渇問題、また、様々な生物の絶滅が進行しているなど、環境に関する問題は地球規模で広がっています。

その解決のためには、わたしたち一人ひとりが自らの生活が環境にどのような影響を及ぼすのかを考え、なるべく環境に悪い影響を与えないよう気をつけなくてはなりません。

札幌市環境基本計画では、札幌が目指す将来の姿を見据えながら、「今、何ができるのか」を示し、全ての人たちが取り組むべき対策を示しています。

## 第2次札幌市環境基本計画って？

札幌市環境基本計画は、札幌市環境基本条例（1995年制定）に基づき、環境保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進するために策定する計画です。

2018年3月、第1次計画（1998年策定）の終了に伴い、札幌市におけるこれまでの環境問題に関する社会情勢の変化に対応するとともに、札幌市及び地球規模での環境問題の解決や将来に向けた環境政策のさらなる推進を図るため、「第2次札幌市環境基本計画」を策定しました（計画期間：2018～2030年度）。

本計画では、市民や企業、市民団体などの全ての主体が取り組むべき施策の方向を定めています。



地球環境への  
取り組みは  
世界の課題です。

世界各地で起こる様々な問題





## 環境に関する世界の動き ー 国連「持続可能な開発目標(SDGs)」ー

### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 世界を変えるための17の目標



2015年9月に国連で採択された2030年までに世界が目指す、持続可能な社会の実現に向けた17の目標です。

第2次札幌市環境基本計画では、環境対策を進めることでこの目標の達成にもつなげていくことを目指しています。

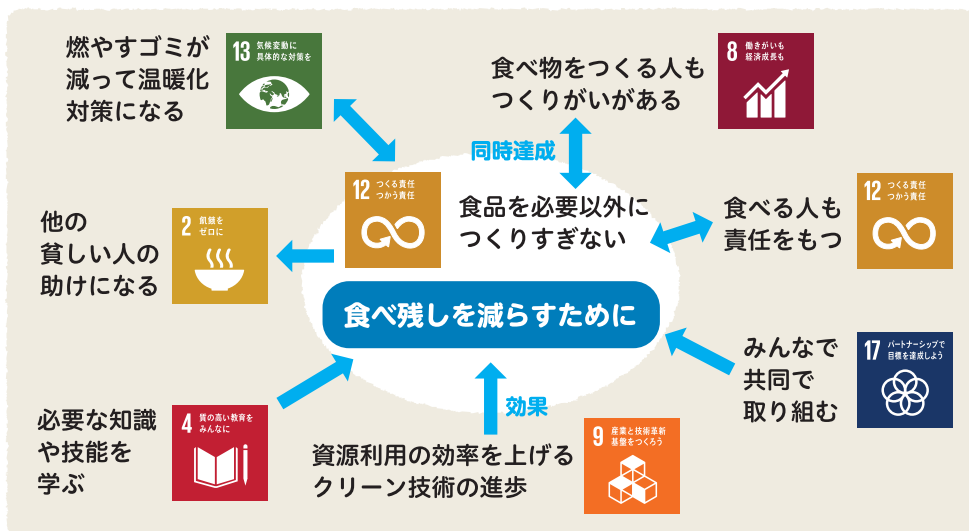
## SDGs と 第2次札幌市環境基本計画の関連

SDGsの大きな特徴として、1つの目標の達成に向けた取組がそのほかの目標の達成にもつながっていくということが挙げられます。

例えば、下の図のように目標12「つくる責任、つかう責任」につながる食品ロス削減の取組は、気候変動対策や飢餓の撲滅など、他の目標とも関わり合っています。

これは、様々な環境配慮行動にも同じような性質があり、自分の行動が、世界が目指す持続可能な社会の形成に向けてどのような影響があるのかを考えるヒントになります。

札幌を持続可能なまちにしていくために、このSDGsの達成に向け、一緒に取り組んでいきましょう。



## 札幌が目指す2050年頃の将来像

### 次世代の子どもたちが笑顔で暮らせる持続可能な都市 「環境首都・SAPPORO」

- 市民一人ひとりが積雪寒冷地における生活のあり方を工夫し、改善し続けることで、将来にわたって自然の恵みを守り、札幌らしい豊かな暮らしの文化が根付いている都市
- 産学官民が協力して、地球温暖化対策や生物多様性の保全、持続可能な資源循環など、国や地球規模での環境問題の解決に率先して取り組み、国内外にその取組と魅力を発信している都市
- 北海道の豊富な自然エネルギーや資源を活用することで、エネルギーや製品の地産地消が進み、環境関連産業が発展した北海道内の経済的循環の中心となることが実現している都市





将来像を実現するために私たちが取り組む「5つの柱」

**柱1** 健康で安全な環境で生活できる都市の実現



**柱2** 積雪寒冷地に適した低炭素社会の実現



**柱3** 資源を持続可能に活用する循環型社会の実現



**柱4** 都市と自然が調和した自然共生社会の実現



**柱5** 環境施策の横断的・総合的な取組の推進



**柱1** 健康で安全な環境で生活できる都市の実現

札幌の空気や水、土がいつまでもきれいな状態であるためには、水や空気がとが安全に生活できるよう、普段から

い状態であるためには、水や空気がとが安全に生活できるよう、普段から



関連するSDGs

実現に向けて必要なこと

川や水辺に触れ合う機会の創出



市民が川や水辺に愛着を持ち、守っていく意識を高めるための取組を行い、川や水辺の環境を維持していく必要があります。

環境ラベル製品の普及



良好な生活環境を確保するため、環境ラベル製品を市民に普及するなど、環境配慮の意識を高めることが必要です。

公共交通の利用促進



自動車からの排出ガスを削減し、良好な大気を守るため、公共交通の利用促進に取り組んでいくことが必要です。

異常気象に対応したまちづくり



気候変動に伴う異常気象に対応した強靭なまちづくりを進めるため、市民への意識啓発や災害時への備えが必要です。

私たちにできること



日常生活の中で、廃油や合成洗剤をなるべく排水しないことや、自動車からの排出ガスを減らすため、公共交通を利用することなどが大切です。また、気候変動による大雨や大雪に備えるため、普段から防災用品を揃えたり、災害危険箇所（ハザードマップ）を確認しておくこととよいでしょう。

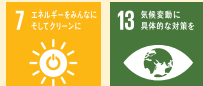




## 柱2 積雪寒冷地に適した低炭素社会の実現

地球温暖化は、私たちの生活から排出が原因とされ、その対策は全世界からできることに取り組んでいきま

される温室効果ガス(二酸化炭素など)ける喫緊の課題となっています。普段しよう。



関連するSDGs

実現に向けて必要なこと

### CO<sub>2</sub>などの温室効果ガスの削減

札幌市の温室効果ガスの排出量は、

平成27年で **1,251** 万 t-CO<sub>2</sub>

平成24年以降は減少傾向にあります。さらなる削減のために、排出量の約9割を占める家庭や業務(オフィス等)、運輸部門における削減が特に重要です。

札幌市で温室効果ガス削減の取組を進め、地球温暖化の解決に寄与していくことが必要です。

### 家庭における省エネの推進

札幌市の暖房エネルギーは、

他都市の約 **5** 倍の **36,900MJ**/世帯・年

東京：約8,000MJ/世帯・年、名古屋：約7,500MJ/世帯・年  
大阪：約6,300MJ/世帯・年、福岡：約6,300MJ/世帯・年

※ MJ(メガジュール)とは、熱量を表す単位

他の政令都市と比較すると、家庭における冬期間の暖房エネルギー消費量が約5倍も多いため、大幅な削減が必要になります。

### 再生可能エネルギーの導入



太陽光や木質バイオマスなど北海道内の自然エネルギーの更なる普及や、水素エネルギーの活用を進めていく必要があります。

### 自動車環境対策の推進



次世代自動車の普及やエコドライブ促進、公共交通の利用促進などにより、温室効果ガスを削減することが必要です。

私たちにできること



外気や太陽光を取り入れたり、着衣の工夫で冷暖房の温度を見直すことが必要です。また、日頃から電気の無駄な使用を減らしたり、省エネ家電への買い替え、住宅の建築やリフォームの際にできるだけ太陽光発電設備を導入するなど、省エネを意識して取り組むことが求められます。



## 柱3 資源を持続可能に活用する循環型社会の実現

資源の循環も地球規模での課題となつて製品は、世界中の様々な地域の資源を無駄にしないよう、普段から気をつけ

ています。私たちが日々購入している利用して作られています。その資源をて生活しましょう。



関連するSDGs

実現に向けて必要なこと

### ごみ排出量の抑制

札幌市のごみ排出量は、

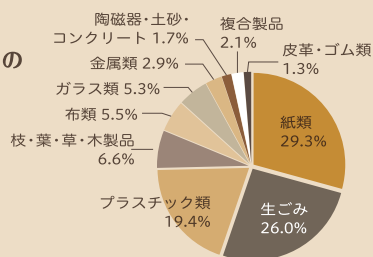
平成28年度で **59.1** 万 t

平成20年度の約 **8** 割まで減少しています。

市民1人1日当たり **827g**のごみを排出しています。

### 家庭におけるリサイクルの促進

一般廃棄物(家庭)ゴミの組成



家庭ごみにおける紙類やプラスチックなどのリサイクルの促進や、生ごみの堆肥化などを促進する必要があります。

### 3Rの推進



資源を持続可能に活用するために3Rを更に推進させるとともに、北海道内の自治体間で相互に協力していくことが必要です。

### 食品ロスの抑制

札幌市の家庭から出る食べ残しや、手つかずの食品は、

年間約 **2万3,000** t

4人家族で換算すると、年間約50kg、約3万円分もの食品をムダにしていることに!

定期的に冷蔵庫内の食材の賞味期限を確認し、使い切るなど、食品ロスのさらなる削減に取り組んでいく必要があります。

私たちにできること



不要なものを買わない、使えるものは再利用して廃棄するごみの量を減らすなど、日頃から意識して3Rに取り組むことが必要です。紙やプラスチックなどのリサイクル可能なごみの分別を徹底することも大切です。





# 柱4 都市と自然が調和した自然共生社会の実現

わたしたちの生活は、多くの動植物やいます。この生き物を守り、豊かな自然から取り組んでいきましょう。

生態系からの恵みによって成り立って自然を次世代に残していくために、でき



関連するSDGs

実現に向けて必要なこと

## 生物多様性に配慮した景観形成



生物多様性に配慮しながら都市計画や景観形成を進めていく必要があります。

## 生物多様性の普及啓発



生物多様性の認知度を向上させ、生物多様性に配慮したライフスタイルや事業活動への転換を進めるため、環境教育などの取組が必要です。

## 動植物データ収集・調査



札幌に生息・生育する動植物に関する情報や科学的知見を、様々な機関と連携して蓄積することが必要です。

## 動植物との共生



野生鳥獣の市街地侵入抑制・被害防止など、人との共生に向けた対策が必要です。また、公園や水辺等の身近なみどりの保全や創出も求められます。

私たちにできること



植樹などで身近なみどりを増やしたり、生活が自然に与える影響を理解し、影響を低減することが必要です。温室効果ガスの排出により気候変動の影響を減らすため、輸送エネルギーの少ない地産地消の食材を購入することも大切な取組です。



NPO 法人 サッポロ ミツバチ プロジェクト

# 柱5 環境施策の横断的・総合的な取組の推進

環境対策を効率的・効果的に進めるため、環境対策を経済振興出すことも必要です。

めには、環境教育による環境問題の現にもつなげるなど、様々な効果を生み



関連するSDGs

実現に向けて必要なこと

## 子どもの環境に対する意識向上



子どもの頃から環境について学び、実践するように働きかけていく取組を行い、生涯にわたって環境に配慮した行動を実践していく習慣を育むことが重要です。

## 幅広い世代への環境教育・学習の推進



子どもから大人までの幅広い世代に対して、環境について学び、体験する機会を設けるなど、環境に配慮した行動を実践していくための取組を行うことが必要です。

## 環境面からの経済振興



事業者などさまざまな主体と連携し、環境保全につながる技術開発などを行うことで、環境保全の推進と合わせて産業振興にもつながります。

## 環境によるコミュニティ活性化



町内会でのゴミ拾い活動など、環境活動の実践は、地域コミュニティの活性化にもつながります。

私たちにできること



講演会や施設見学など様々な機会でも環境に関する知識を習得することや、習得した環境の知識を周囲に伝えることが大切です。自ら率先して環境の取組につながる行動をするなど、環境全般に関する意識を高め、できることから取り組んでいく必要があります。

